

記載例

伐採及び伐採後の造林の届出書

伐採を開始する30～90日前に提出すること。

令和〇年〇月〇日

萩市長 田中文夫 様

伐採者と造林者が異なる場合は連名とすること。

届出人
(伐採者)

住所 萩市江向〇〇番地

氏名 〇〇〇〇株式会社

代表取締役 〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

立木の所有者(=伐採者)の氏名を記入すること。

届出人
(造林者)

住所 萩市土原〇〇番地

氏名 〇〇〇〇

連絡先 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

次のとおり森林の立木を伐採したいので、森林法第10条の8第1項の規定により届け出ます。本伐採は、届出者のうち 〇〇〇〇 が所有する立木を伐採するものです。

伐採箇所が複数地番にまたがる場合は、該当する地番を全て記入すること。

1 森林の所在場所

萩市大字〇〇字〇〇 〇〇番地

2 伐採及び伐採後の造林の計画

別添の伐採計画書及び造林計画書のとおり

3 備考

伐採者・造林者が登記簿上の土地所有者と異なるときは、両者の関係を記入すること。(提出要領を参照)

伐採者は、土地所有者から立木を購入した者に相違ありません。

自然公園法の規定による伐採許可あり。

【伐採者の担当:〇〇〇〇、連絡先:〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇】

<注意事項>

伐採者又は造林者が法人等の場合は、担当者の氏名・連絡先を記入すること。

1 伐採する森林の所在する市町村ごとに提出

2 伐採する者と伐採後の造林をする者が異なり、これらの者が共同して提出する場合には、当該伐採する者と当該伐採後の造林をする者が、伐採及び伐採後の造林の計画をそれぞれ作成した上で、連名で提出すること。

3 伐採及び伐採後の造林の計画は、森林の所在場所ごとに記載することとし、面積は少数第2位まで記載し、第3位を四捨五入すること。

(別添)

伐採計画書

伐採方法が皆伐の場合

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

<伐採する者の住所・氏名>

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇株式会社
代表取締役 〇〇〇〇

伐採総面積とそのうちの人工林の面積を記入すること。

伐採が年をまたぐ場合は年次別の面積を記入すること。

1 伐採の計画

伐採面積	0.03 ha (うち人工林 0.02 ha) (令和5年0.02ha、令和6年0.01ha)		
伐採方法	主伐(<u>皆伐</u>) ・ 択伐) ・ 間伐	伐採率	100 %
作業委託先	〇〇森林組合		
伐採樹種	すぎ、ひのき、ざつ	伐採開始は届出日から30～90日以降とすること。	
伐採齢	50(50～60)年生		
伐採の期間	令和〇年〇月〇日 ~ 令和〇年〇月〇日		
集材方法	<u>集材路</u> ・ 架線 ・ その他()		
集材路の場合 予定幅員・延長	幅員 2.5 m ・ 延長 200 m		

2 備考

隣接地から1m程度離して伐採します。

住宅接近の伐採

該当するものを○で囲み、その他の場合は()内に具体的な方法を記入すること。

集材方法が集材路の場合は予定幅員・延長的を記入すること。

境界確認を行わない場合は、その理由を記入すること。

<注意事項>

- 伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あか) 伐採が林業目的以外の場合は、具体的な目的を記入すること。その他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(〇～〇)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、年次別に記載すること。

(別添)

伐採計画書

伐採方法が**択伐**の場合

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

＜伐採する者の住所・氏名＞

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇株式会社
代表取締役 〇〇〇〇

伐採総面積とそのうちの人工林の面積を記入すること。

伐採が年をまたぐ場合は年次別の面積を記入すること。

1 伐採の計画

伐採面積	0.03 ha (うち人工林 0.02 ha) (令和5年0.02ha、令和6年0.01ha)		
伐採方法	主伐(皆伐・ 択伐)・間伐	伐採率	30%
作業委託先	〇〇森林組合		
伐採樹種	すぎ、ひのき、ざつ	伐採率30%以下(伐採後に植栽する場合は伐採率40%以下)とすること。	
伐採齢	50(50~60)年生	伐採開始は届出日から30~90日以降とすること。	
伐採の期間	令和〇年〇月〇日 ~ 令和〇年〇月〇日		
集材方法	集材路 ・架線・その他()		
集材路の場合 予定幅員・延長	幅員 2.5 m・延長 200 m		

2 備考

隣接地から1m程度離して伐採します。

住宅接近の伐採

該当するものを○で囲み、その他の場合は()内に具体的な方法を記入すること。

集材方法が集材路の場合は予定幅員・延長的を記入すること。

境界確認を行わない場合は、その理由を記入すること。

＜注意事項＞

- 伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あか) 伐採が林業目的以外の場合は、具体的な目的を記入すること。その他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 伐採齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(〇~〇)」のように記載すること。
- 伐採の期間が1年を超える場合においては、年次別に記載すること。

(別添)

伐採計画書

伐採方法が間伐の場合

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

<伐採する者の住所・氏名>

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇株式会社
代表取締役 〇〇〇〇

伐採総面積とそのうちの人工林の面積を記入すること。

伐採が年をまたぐ場合は年次別の面積を記入すること。

1 伐採の計画

伐採面積	0.03 ha (うち人工林 0.02 ha) (令和5年0.02ha、令和6年0.01ha)		
伐採方法	主伐(皆伐・ <u>択伐</u>)・間伐	伐採率	35 %
作業委託先	〇〇森林組合		
伐採樹種	すぎ、ひのき、ざつ	伐採率は35%以下とすること。	
伐採齢	50(50~60)年生	伐採開始は届出日から30~90日以降とすること。	
伐採の期間	令和〇年〇月〇日 ~ 令和〇年〇月〇日		
集材方法	<u>集材路</u> ・架線・その他()		
集材路の場合 予定幅員・延長	幅員 2.5 m・延長 200 m		

2 備考

隣接地から1m程度離して伐採します。

住宅接近の伐採

該当するものを○で囲み、その他の場合は()内に具体的な方法を記入すること。

集材方法が集材路の場合は予定幅員・延長的を記入すること。

<注意事項>

境界確認を行わない場合は、その理由を記入すること。

1 伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。

2 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あか) 伐採が林業目的以外の場合は、具体的な目的を記入すること。その他の針葉樹及びぶな、くぬぎその他の広葉樹の別に区分して記載すること。

3 伐採齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(〇~〇)」のように記載すること。

4 伐採の期間が1年を超える場合においては、年次別に記載すること。

(別添)

造林方法が人工造林の場合

造林計画書

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

<造林する者の住所・氏名>

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇

伐採面積と一致すること。

1 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積(A+B+C+D)		0.30 ha
人工造林による面積(A+B)		0.30 ha
植栽による面積(A)		0.30 ha
人工播種による面積(B)		ha
天然更新による面積(C+D)		ha
ぼう芽更新による面積(C)		ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・なし	
天然下種更新による面積(D)		ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・なし	

(2) 造林の方法別の造林の計画

伐採が完了した日の翌年度の初日から2年以内とすること。

	造林の	造林樹種	樹種別の造林面積 ha	樹種別の植栽本数 本	作業委託先	獣害対策
人工造林 (植栽・人工播種)	R7.4.1~ R9.3.31	すぎ ひのき	0.20 0.10	400 100	〇〇森林組合	防護柵の設置
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—	—	—	2,000~5,000/haとすること。	—	—
5年後において 的確な更新が なされない場合	—	—	—	—	—	—

何も行わない場合は「特になし」と記入すること。

3 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

4 備考

<注意事項>

- 1 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 2 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林又は木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち特に効率的な施業が可能な森林の区域内にあって、植栽による更新を行う森林として定められているものの伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 3 造林樹種欄、樹種別の造林面積欄及び樹種別の植栽本数欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 4 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であって、伐採の終了日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 5 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。
- 6 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合のみ記載すること。

(別添)

造林方法が**天然更新**の場合

造林計画書

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

<造林する者の住所・氏名>

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇

伐採面積と一致すること。

1 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積(A+B+C+D)	0.30 ha
人工造林による面積(A+B)	ha
植栽による面積(A)	ha
人工播種による面積(B)	ha
天然更新による面積(C+D)	0.30 ha
ぼう芽更新による面積(C)	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・なし
天然下種更新による面積(D)	0.30 ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・ <u>なし</u>

該当するものを○で囲むこと。(通常は地表処理等を行わないと思われるので「なし」でよい。)

(2) 造林の方法別の造林の計画

伐採が完了した日の翌年度の初日から**5年以内**とすること。

	造林の	造林樹種	樹種別の造林面積 ha	樹種別の植栽本数 本	作業委託先	獣害対策
人工造林 (植栽・人工播種)	—	—	—	—	—	—
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	R7.4.1~ R12.3.31	その他 広葉樹	0.30	/	/	特になし
5年後において 的確な更新が なされない場合	R12.4.1~ R14.3.31	くぬぎ こなら	0.20 0.10	400 100	—	特になし

天然更新の期間が満了した日の翌日から**2年以内**とすること。

3 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

4 備考

2,000~5,000/haとすること。

<注意事項>

- 1 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 2 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林又は木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち特に効率的な施業が可能な森林の区域内にあって、植栽による更新を行う森林として定められているものの伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 3 造林樹種欄、樹種別の造林面積欄及び樹種別の植栽本数欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 4 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であって、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 5 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。
- 6 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合のみ記載すること。

(別添)

伐採後に森林以外の用に供する場合

造林計画書

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

<造林する者の住所・氏名>

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇

1 伐採後の造林の計画

(1) 造林の方法別の造林面積等の計画

造林面積(A+B+C+D)	—	ha
人工造林による面積(A+B)	—	ha
植栽による面積(A)	—	ha
人工播種による面積(B)	—	ha
天然更新による面積(C+D)	—	ha
ぼう芽更新による面積(C)	—	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・なし	
天然下種更新による面積(D)	—	ha
天然更新補助作業の有無	地表処理・刈出し・植込み・その他()・なし	

(2) 造林の方法別の造林の計画

	造林の	造林樹種	樹種別の造林面積 ha	樹種別の植栽本数 本	作業委託先	獣害対策
人工造林 (植栽・人工播種)	—	—	—	—	—	—
天然更新 (ぼう芽更新・天然下種更新)	—	—	—	—	—	—
5年後において 的確な更新が なされない場合	R12.4.1~ R14.3.31	くぬぎ こなら	0.20 0.10	400 100	—	特になし

伐採が終了した日の翌年度の初日から5年を経過した日において、森林以外の用に供されていない場合を想定して、造林の期間その他を記入すること。

3 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途

宅地造成(転用予定時期:令和6年8月)

4 備考

具体的な用途、時期を記入すること。

2,000~5,000/haとすること。

<注意事項>

- 造林面積欄には、伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合を除き、主伐に係る伐採面積と一致するよう記載すること。
- 植栽による面積欄には、市町村森林整備計画において植栽によらなければ適確な更新が困難な森林又は木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち特に効率的な施業が可能な森林の区域内にあって、植栽による更新を行う森林として定められているものの伐採跡地の面積を下回らないよう記載すること。
- 造林樹種欄、樹種別の造林面積欄及び樹種別の植栽本数欄には、複数の樹種を造林する場合には、造林する樹種ごとに複数の行に分けて記載すること。
- 5年後において適確な更新がなされない場合欄には、造林の方法を天然更新による場合(伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途を記載した場合であって、伐採の終了した日から5年後において当該用途に供されていないときを含む。)における造林の期間、造林樹種、樹種別の造林面積及び樹種別の植栽本数を記載すること。
- 鳥獣害対策欄には、防護柵の設置、幼齢木保護具の設置などの方法を記載すること。
- 伐採後において森林以外の用途に供されることとなる場合のその用途欄には、伐採後5年以内において当該伐採跡地が森林以外の用途に供されることとなる場合にのみ記載すること。

確認通知書・適合通知書交付申請書

令和〇年〇月〇日

萩市長 田中文夫 様

伐採届の届出年月日を記入すること。

届出書の届出人(伐採者)の住所・氏名と一致すること。

申請者
(伐採者)

住所 萩市江向〇〇番地
氏名 〇〇〇〇株式会社
代表取締役 〇〇〇〇

下記により提出した伐採及び伐採後の造林の届出書について、[確認通知書・適合通知書] の交付を申請します。

記

1 届出年月日

令和〇年〇月〇日

伐採届の届出年月日を記入すること。

2 届出を行った森林の所在

萩市大字大字〇〇字〇〇 〇〇番地

伐採届の森林の所在場所届と一致すること。

3 交付申請理由

合法木材の証明のため

通知書の申請理由を記入すること。

4 その他

下記の者に適合通知書等の受理を委任します。

萩市大字大字〇〇番地 〇〇萩森林組合 代表理事組合長 〇〇〇〇

通知書の受理を委任する場合、その旨を記入すること。

<注意事項>

- 1 伐採者の住所・氏名を記入すること。(造林者も交付を希望する場合は、連名とすること。)
- 2 申請者が法人等の場合は、氏名欄に名称及び代表者氏名を記入すること。
- 3 押印は不要とする。
- 4 適合通知書等の受理を伐採を委託した業者等に委任する場合は、委任する旨・委任者の氏名・委任先をその他欄に記入すること。
- 5 合法木材の証明を必要とする場合は、收受印を押印した届出書を適合通知書等に代えることができる。